

# 「生き方によって選びを示すⅢ ～立派にふるまう～」

I ペテロ 2:11-25

## ■ 土台がしっかりとしているなら…

「ロバを売りに行く親子」というイソップ童話があります。ロバを売りに町に出かけた父と息子。はじめは、ロバを連れて二人とも歩いていました。すると、旅の途中で「何で二人とも歩いているのだ。どちらかがロバに乗ったらいいのに。」と笑われました。恥ずかしくなった父親は息子をロバに乗せて旅を続けます。すると今度は「父親を歩かせるなんて、悪い息子だな！」と指をさされました。そこで、今度は父親がロバに乗り、息子が歩きました。すると、「ひどい父親だな！子どもを歩かせるなんて」とまた別の人に指をさされます。嫌になってきた親子は今度は二人でロバに乗りますが、ロバは重さに耐えきれないで倒れてしまい、結局ロバが売り物にならなくなってしまい、目標を達成できなかった…そんなストーリーです。目的や自分の在り方に自信がなかったがために人々が言う言葉に振り回されて右往左往してしまう姿を見ることができます。私たちは誰かに何かを言われると影響を受けます。そして自分のやり方を変えてしまうということがあります。けれど、私達が岩の土台に立って生きているのならどんなことがあっても影響を受けません。まさに現在は私達がどう生きるかをもう一度改める時がきているのだと感じます。けれど、悩めといっているのではありません。土台がしっかりとしているのなら悩む必要はありません。遺された人に正しいメッセージが伝えられるのなら、私達はいつ天国に帰っても大丈夫なのです。

「生きることはキリスト、死ぬことも益です。」(ピリピ 1:21) とパウロが語っている通りです。今死んでまずいのなら、今なすべきことをきちんとすれば良いのです。つまり、どう生きてどう死んだかが次の人に伝えられるようにしておけばいつ天国に帰っても大丈夫なのです。

## ■ 自由とは…

自由とは自分の思うようにして良いということではありません。自らの存在理由を知ることです。自由なふるまうというのは、置かれた場所にいる理由を知ることです。この手紙はネロの時代、ネロがクリスチャンを大虐殺した背景の中書かれたものです。ペテロはこの後、ネロによって逆さ十字架の刑で殺されたと言われています。そんなペテロが「善良で優しい人に対してだけでなく、横暴な主人に対しても従いなさい。」(18節)と語っているのです。なぜかという、今は迫害されているけれども立派なふるまいによって後の日に神がほめたたえられるようになるからだというのです。

## ■ 模範者であるキリストに従いなさい…

彼の生き方は「愛」そのものでした。人の背負っているものを自らが背負うことでその人がその人として本当に生きることができるようになるということが彼の十字架であったわけです。ですから、私達の心の中にある悪、ののしられたらなのしり返したい心、苦しめられたらおどしてやりたい心(2:23)を脱ぎ捨てなさいと言われたのです。その立派なふるまいが後になって神がほめたたえられることになるからです。ネロという間違っただけのリーダーによって多くのクリスチャンが残忍な方法で殺されました。その後もヨハネをパトモス島へ流刑に処したネロよりももっと残忍なことをした皇帝も出ました。その中でペテロ、ヨハネをはじめ多くのクリスチャンの忍耐がありました。我慢とは違います。我慢とは嫌なことを嫌ながら我慢していることですが、忍耐というのはその向こうに「希望」があることがわかっているのだから耐え忍んでいるのです。現に今やローマの国教はキリスト教となっています。

## ■ 二つの生き方…

「みなの人々がほめられるとき、あなたがたは哀れです。彼らの父祖たちも、にせ預言者たちに同じことをしたのです。」(ルカ 6:26)

「あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行い

を見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ 5:16)

この二つの御言葉はそれぞれ違います。一つ目のルカの箇所は「我慢と偽善」です。自分の思いとは違っても人に評価されるために生きようとする生き方です。人の評価が人生の土台です。二つ目のマタイの箇所は「忍耐と善」です。影響を受ける側ではなくて与える側です。光はいつも変わらず同じスピードでいつも同じ方向に向かって進んで行きます。どんな影響も受けません。

## ■ どうふるまうのか？自由人として…

自由とは自分の存在意義がわかっていることです。例えば、なぜ眠るのでしょうか。疲れたから眠るのと明日を元気に生きるために眠るのとは同じように聞こえますが意味が全く違います。そこで自由人として私達ははどうするべきでしょうか。

①従いなさい(13節)…主権者である王、人が立てた制度に対して。

②敬いなさい(17節)…すべての人に対して。

③愛しなさい(17節)…兄弟たちに対して。あなたと共に生きる人です。血の繋がった兄弟姉妹ということではなく、今あなたが共に生きる人のことです。

④尊びなさい(17節)…王に対して。たてられた者を大切に。現代の私達の問題は、してはいけないこととしてよいことが分かっていないという事です。聖書はしてよいことを教えています。そのことを知り実践することが「自由人」です。この①から④までのことをどこでも行うならば自由人としてふるまうことができます。しかし心売って間違っただけをしなさいと言っているわけではありません。ネロの時代クリスチャン達はすべてネロに従っていたわけではではありません。信念をもって生きていました。自分の命をかけて、してはならないことと、して良いことをしっかりと理解していました。私達の人生の一番大切なものを覆す時には命をかけて戦う時がきます。けれど、そうではない時には私達は愛によってそこに従いなさいと聖書は教えているのです。なぜかという、そのたてられたリーダーを敬おうとし、尊ぼうとするからです。持論ではなく、聖書を土台にこうあるべきだということを持ってください。今をしっかりと自分の内側にあるルールを見極めて大切なことを見出し、いきましょう。

■ すべての人を敬いなさい。  
兄弟たちを愛し、神を恐れ、王を尊びなさい…

教会とは建物のことではありません。人々を招くことのできる揺るがない心が私達の内にいるということです。イエス・キリストがその人を「愛した」ということにすべてが向かっていくのです。愛するとは可哀そうと思うのではなく、その人が間違っただけのところにいけないようにその人のために自分が城壁となって行うということです。愛をもってたてられた人のために祈り、この世のルールに従い、すべての人を敬い、兄弟を愛することができれば私達のすることで後に神がほめたたえられるのだとペテロは語っています。

## ■ 祈りましょう…

イエスキリストは私たちの為に十字架に向かっていきました。人の心の暗闇に光として来られました。誰も知らないあなたの罪を指摘しているのではありません。あなたの重荷をおろしてほしいのです。愛とは人を変えることではなく、自分が変わることで、私達が愛によってすべてのことを行うことができますように。神様。わたしの心にあなたの愛を教えてください。わたしの存在の意味を、在り方を、自由を教えてください。私の心にあなたの土台を与えてください。

(要約者: 全本 みどり)

(2021年5月2日)